

『明日のハナコ年代記』

作 玉村徹
短縮版 2022.7.10

キャスト(一三人)

ナレーター○☆

ハナコ(演劇部員)☆

小夜子(演劇部員)☆

ケーブルテレビ(地元ケーブルテレビの担当者)○

顧問1(演劇部の顧問の先生)○

顧問2(演劇部の顧問の先生)☆

顧問3(演劇部の顧問の先生)☆

偉い人(とにかく偉い先生)○

スクールロイヤー(弁護士)○

とーちゃん○

かーちゃん☆

じーちゃん○

ばーちゃん☆

*○は男性、☆は女性ですが、どうしてもというわけではありません。

*この物語は、本当のところもありますが、そうでないところもあるかもしれません。でもそれはこの世界と同じです。願わくは、みなさんが真実を見分ける目を持たれんことを。

*車座になって座る。キャストはそれぞれ、「ハナコ」など役名を書いた簡単なお面を頭に装着する。

ハナコと小夜子が立っている。

ナレーター 二〇二一年九月一九日。演劇の県大会で『明日のハナコ』という劇が上演されました。でも劇が終わったとき、拍手はありませんでした。

コロナが蔓延^{まんえんちゆう}中^{ちゆう}だったので、大会が無観客で開催されたからでした。

ハナコ 終わったー！

小夜子 変な感じだよね、お客さんが一人もいないって。

ハナコ おなかすいたー！

小夜子 審査員はおじさんばつかで、こいつら全然笑ってくれなくて、もう空気がカタいカタい。面接試験か。

ハナコ あたしのおにぎりはどーこだー！

小夜子 ちよっと話聞けよ！

ハナコ でもみなさんに嬉しいニュースです！なんと地元ケーブルテレビがすべての学校の劇をテレビで放送してくれることになったのです！

小夜子 あんた、誰に説明してんだよ。

ハナコ うちの家族なんかもう、みんな放送を楽しみにしてて、

*とーちゃん・かーちゃん・ばーちゃん・じーちゃん、立ちあがる。

とーちゃん ハナコのとーちゃんです。楽しみにしています。

かーちゃん ハナコのかーちゃんです。楽しみにしてるわよ。

ばーちゃん ハナコのばーちゃんですじゃ。楽しみにしとりますじゃ。

じーちゃん ハナコのじーちゃんですじゃ。ヨシコさん、朝ご飯はまだですかい

のう。

*4人、座る。

ハナコ とうくら楽しいみにしてて。

小夜子 今の誰だよ！ てか、最後のじーちゃんはなんなんだよ！

ハナコ ケーブルテレビさん、ありがとう！

小夜子 だから話聞けよ！

ナレーター ところがそのころ、そのケーブルテレビから、演劇部の顧問の先生たちに一つの連絡が届いていました。

*ケーブルテレビ、立ちあがる。

ケーブルテレビ ケーブルテレビの者です。『明日のハナコ』のことですが、中に「原発」という、扱いの微妙な問題が出てきます。また、「北野たけし」や「前の敦賀市長」など、特定の個人をとりあげて批判するところがあります。さらにまた差別用語も使われているようです。

これを放送してよいかどうか、これから社内で審議することになります。が、先生方のご意見をお聞かせください。

*ケーブルテレビ、座る。

ハナコと小夜子、劇を再現する。

小夜子 でもさ、間違っていたら間違っていました、って反省するくらいのことにしてほしいと思うんだよ。こどもだって謝るんだよ。でも北野タケシ

は大人なんだからさ。

ハナコ 今のは「つい口が滑った」？

小夜子 はい。つい口が滑りました。謝ります。かつこ笑い。

こんなのもあるよ。「まあ原子力発電所が来る。電源三法の金はもらおうけど、そのほかに地域振興に対して裏金よこせ、協力金よこせ、というのがそれぞれの地域にある。お宮さんの修理のために原発、動燃、北陸電力に頼んで三億円できた。そんなわけで短大は建つわ、高校はできるわ、五〇億円で運動公園はできるわ。そりやもう棚ぼた式の街作りができる。そのかわり一〇〇年たってカタワが生まれてくるやら、五〇年後に生まれた子供が全部カタワになるやら、それはわかりませんよ。わかりませんが、今の段階で原発をおやりになった方がよい」それ誰。

小夜子 敦賀市長。石川県の志賀町で原発建設の話が持ち上がったときに地元商工会に招かれてしゃべったらしいのね。

*ハナコと小夜子、座る。

顧問1、顧問2、顧問3、偉い人、立ちあがる。会議が始まる。

顧問1 差別用語はまずいなあ。「ピー」とかで消す手もあるけど、かえって視聴者の注意を引いちやうんじやないかなあ。

顧問2 敦賀市長はもう亡くなってますけど、遺族の方から名誉毀損で訴えられたりしませんか。息子さんは国会議員ですし。

偉い人 原発を扱った劇というのは、これだけだったのかね。

顧問3 はい。他は、クラスカーストとか、将来の進路への不安とか、不登校になった友達を励まそうとか、そういう感じですよ。

偉い人 やはり高校生には高校生らしい劇を作って欲しいもんだなあ。困ったもんだ。

顧問3 どうしたらいいでしょう。

偉い人 ケーブルテレビの判断に任せたらいいんじゃないやありませんか。ケーブルテレビにも原発関連企業のスポンサーがあるでしょうし。ケーブルさんと

は、これからもいい関係を築いていきたいですからねえ。

顧問1 私ら高文連^{こうぶんれん}だって原発関係からお金もらってますもんね。

偉い人 ではみなさん、ここは大人の判断をお願いします。よろしいですね。

*顧問2 以外は座る。

顧問2、ハナコたちのところへ行く。

顧問2 というわけなのよ。

小夜子 というわけって。

ハナコ 先生、それだけですか。

顧問2 それから、ハナコさんは演技賞を貰いました。これはすごく名誉なことだと思えます。おめでどう。

ハナコ それだけですか。

顧問2 演技賞、喜んでいいと思うけど。

ハナコ どうして先生たちは、ぜひ『放送してください』ってケーブルテレビに言ってくれなかったんですか。それって冷たくないですか。

顧問2 ですから、それはちよつと問題が、

小夜子 この劇にも間違いがあるかも知れません。そのときは「それは間違ってる」といつてくれていいです。批判してくれていいです。それ聞いて、また劇を作ります。そうやってちよつとずつ、いい劇が作られていくん

だと思えます。先生、これ、どつか間違ってますか。

顧問2 あのね、先生が言いたいのは、

小夜子 先生たちは、批判されたくないだけなんじゃないですか。

ハナコ お願いします。みんな放送を楽しみにしてるんです。

*ハナコと小夜子、座る。

顧問2、顧問3の前にもどる。

顧問1+顧問3+偉い人、立ちあがる。

顧問2 というわけです。

偉い人 わかりました。非常手段を使いましょう。こういう場合に備えて、私には、教育委員会から、禁断^{きんだん}の暗黒魔法^{あんこくまほう}が授けられているのです！

顧問3 あの、先生？

顧問1 暗黒魔法って駄目じゃないですか。

偉い人 エロイムエツサイム、エロイムエツサイム、我は求め訴えたり、いでよ、最強の魔王・スクールロイヤー！

*偉い人、それらしいポーズ。

それらしい音楽。

スクールロイヤー、立ちあがる。

スクールロイヤー はーっはっはー。呼ばれて飛び出てジャジャジャジャーン。

私こそは教育委員会の最終兵器、スクールロイヤーだ。はーっはっはー。

顧問2 センス、古いですね。

顧問1 うん、昭和のセンスだ。

顧問3 まさに昭和ですね。

偉い人 このお方をどなたと心得る。恐れ多くも教育委員会より任命された弁護士・スクールロイヤーであらせられるぞ。学校のさまざまな問題について、法律の見地から学校に助言してくださるのだ。みななもの、頭が高い。控えおろう！

顧問1＋顧問2＋顧問3 ははー。

スクールロイヤー まず第一に、この劇が原発を取り上げているところだが、これは問題にできない。これを理由に『ハナコ』を排除しようとする『検閲だ』とか「表現の自由に対する侵害だ」とか騒がれてかえってこちらが危なくなる。

第二に、個人名を挙げてその発言を批判している点だが、「北野たけし」も「前の敦賀市長」も公人こうじんすなわち「おおよけの人物」である。したがってその言葉を引用したことも『ハナコ』を排除する理由にはできない。というわけで、使える理由はただ一つ、「差別用語」だ。「カタワ」という言葉だ。この言葉があるということをも理由にして、『ハナコ』を排除するのだ。

顧問3 ですが、それは市長の発言で、それを引用した高校生たちには差別の気持ちはありません。

スクールロイヤー だまれ。そんなことは問題ではないのだ。障害を持った人は「カタワ」という言葉を聞いて傷つくだろう。そしてそんな劇を作った生徒たちを責めるだろう。バッシングするだろう。そんなとき、お前たちに生徒を守ることができるか。学校を守ることができるか。

だから『明日のハナコ』を排除するのだ。そうすればみんな幸せになれるのだ。以上が私の助言である。はーっはっはー！

*再びそれらしい音楽。
スクールロイヤー、座る。

偉い人 というわけで、ケーブルテレビには、はつきりと『明日のハナコ』は放映しない」と伝えましょう。

それから、劇の脚本はどうなっていますか。

顧問3 毎年、大会で上演される劇の脚本は全部「脚本集」にまとめて、各学校に配布しています。

偉い人 それは全部回収します。外部の目に触れたら一大事です。

顧問1 さすがにそれは行き過ぎじゃ、
偉い人 『明日のハナコ』は封印するのです！それが生徒を、学校を守ることになるのです！ はーっはっはー！

*先生たち、座る。
ハナコ、立ちあがる。
音楽が流れる。

ハナコ 父ちゃん。わたし、あんま落ち込んでないよ。

楽しいやん。

なんか楽しいやん。

星がよお見えるやん。

あたし、学校やめる。

学校やめて働く。

だいたい学校は嫌いだったし。

だいたい学校は嫌いだったし！

だいたい学校は嫌いやったし！！

*音楽終わり。

ハナコ、小夜子のところに行く。小夜子は書き物をしている。

ハナコ なにやってんの。

小夜子 ……。

ハナコ なにやってんの。

小夜子 ……。

ハナコ ちよっと。なにやってんのよ。

小夜子 ……。

ハナコ 性格ブス。

小夜子 なんだとこら！

ハナコ まさかあんた、脚本書いてんの？

小夜子 あ、聞きたい？ そうか聞きたいか。じゃあ仕方ないな。

ハナコ なんも言っていないって。

小夜子 今、地球温暖化が問題になってます。二酸化炭素、つまりCO₂が増えるから。

ハナコ はいはい。

小夜子 熱いからクーラーを使う。クーラーを使うには電気がある。電気を作るのは発電所。でも火力発電所で石炭を燃やすとまたCO₂が増えちゃう。じゃあ、CO₂を出さずに電気を作る方法とは！ それは！

ハナコ それは？

小夜子 それは原子力発電！ 原子力発電はウランを燃やすからCO₂を出さないんだ！ 原子力発電は環境に優しいんだよ！

「進め、ゼロカーボン！」

ハナコ なにそれ。

小夜子 電力会社のCM。でもこれ間違ってるから。

ハナコ え？

小夜子 「原発は刻一刻と変化する電力需要の変化に合わせて出力を細かく調整することはできません。原発は、停止しているとき以外は常にフル出力で運転されます。」

つまり、夜なんかは電気はあんまり使わないから余っちゃうんだけど、原子力発電所はそういう調整はできないの。だからどうしても別に火力発電所を作らないといけないわけ。でも火力発電所では石炭とかを燃やすから、

ハナコ CO₂は減らない？

小夜子 というわけで「ゼロカーボンなんて嘘つくな！」って劇を作ってる。

ハナコ はあ。なんであんた、そんなに頑張れるのよ。

小夜子 てことは知らないな。

ハナコ えなに？

小夜子 ほらこれ。

*スマホでYouTubeの動画を見せる。

ハナコ 『ハナコ』だ。

小夜子 うん。あれ書いた先生と、脚本家で演出家のなんとかって人、その二人がやってんだよ。二人芝居。それがYouTubeに上がってるの。

ハナコ 『明日のハナコ』だ。

小夜子 コメントもあるよ。「原発のことがよくわかった」「演劇部の生徒のみ

なさん、あなたたちはヒーローです、ありがとう」あたし、これですごく励まされてき、だから、

ハナコ サイテー！

小夜子 なんてー？

ハナコ あたし、こんなゴツくないもん！ 太ってないもん！ ヒゲ生えてないもん！

小夜子 ああ、そこ？

ハナコ こんなバケモノだと思われるくらいなら、死ぬ。もう死ぬ。すぐ死ぬ。いま死ぬ！

小夜子 ちよつと落ち着け。深呼吸して。ひっひっふー。

ハナコ それは違う。

小夜子 ほら、署名も集まってきた。こんなのおかしいって、怒ってる大人もいるんだよ。たくさんいるんだよ。

ハナコ すごいね。

小夜子 世界は動くよ。

ハナコ うん。動く。

*小夜子とハナコ、座る。

顧問1＋顧問2＋顧問3＋偉い人＋ケーブルテレビ、立ちあがる。

偉い人 どうにかできないのかね、彼らを。

顧問3 難しいです。一人は『明日のハナコ』の脚本を書いた元顧問です。もう一人は県大会の審査員や研修会の講師を何度もしてて、有名な賞も受賞している脚本家で、

偉い人 しかし差別用語が入ってるんだ、苦情が来てるだろう。バッシングも起

きてるだろう。

顧問3 それがまったくありません。

偉い人 そんなバカな。

顧問3 むしろ、私達が叩かれています。「これのどこが差別なんですか」「高校生がこれだけ社会の問題に真摯しんしに取り組んでいるのは素晴らしいことだ」「演劇部会の先生たちは原発や国会議員に付度そんたくしたんじゃないか」「こんな決定をした先生方こそ反省すべき」「脚本集の回収もありえない。まるで焚書坑儒かんしよこうじゆです」「大人の判断をお願いします」って最低だな。悪徳政治家かよ」「生徒の気持ちを傷つけたのはお前たちだ」「教師失格」「鬼」「カバ」「ナスのへた」「お前のかーちゃんですべそ」

偉い人 わ、私は！

顧問3 はい？

偉い人 私は『大人の判断をお願いします』なんて言ってない！

顧問3 えー？

偉い人 そもそも、『ハナコを放送しない』なんて決めてません。そんな覚えはありません。

顧問1 えー？

偉い人 それはケーブルテレビさんの判断です。だから責めるなら、ケーブルテレビさんが責められるべきです。

ケーブルテレビ ちよつと待ってください、先生方がおっしゃったんじゃないですか、『ハナコ』はなかったものとして欲しい」と。

偉い人 言ってません。「懸念けんねんはあるけれど、あくまでもケーブルテレビさんのご判断を尊重する」とお伝えしたんです。そうですよね、みなさん。

顧問1 あの、それはいくらなんでも、

偉い人 あなただって『高文連も原発からお金をもらってる』なんて言ってませ

んよね？

顧問1 ぎく。

偉い人 脚本集も生徒に配布します。回収なんて、誰が言い出したんだ、まったく。とんでもない話ですよ。

顧問2 ほんとにとんでもないです。

偉い人 とにかく私たちに責任はありません。私たちに対する非難はすべて事実無根です！

*偉い人たち、座る。

ナレーター 一二月の終わり、ケーブルテレビの放送がありました。みんなテレビの前に集まっていました。

*ハナコと、とーちゃん、かーちゃん、ばーちゃん、じーちゃんが立ちあがる。みんなでテレビを見ている。

とーちゃん さっきのはなかなか面白かったな。どこの高校だ？

かーちゃん ええと、「上演四本目・永平寺高校『ただいま修行中』」だったわね。

とーちゃん うちは何本目だ？

かーちゃん 次よ。うちは五本目だから。そうよね。

ハナコ うん。

とーちゃん なんか緊張するな。

かーちゃん なんだあんたが緊張するのよ。

ハナコ あたしも緊張してきた。

かーちゃん なんだあんたまで緊張するのよ。

ハナコ だって、あたしだって自分の演技見るの、初めてなんだ。

とーちゃん ばーちゃん、もうすぐ始まるぞ。こっち来ないと。ほら、じーちゃんも。ハナコが出るぞ。

ばーちゃん はいはい。

じーちゃん はいはい、ヨシコさん、もう晩ご飯ですかいのう？

ナレーター 「次は上演五本目、東尋坊高校『夢に向かってバンジージャンプ』

です。どうぞご覧ください。」

とーちゃん え？

*音楽が流れる。

小夜子、立ちあがる。

小夜子 東尋坊高校は、本当は六番目でした。でも、放送では五番目に上演したことになっていました。次の学校は、本当は七番目だったけれど六番目

になっていました。次の学校は、本当は八番目だったけれど七番目になっていました。いつまでたっても私たちの『五番目』は出てきませんでした。

*小夜子と、とーちゃん、かーちゃん、ばーちゃん、じーちゃん、座る。音楽終わる。

ナレーター それでもみんなあきらめませんでした。オッサンたちは何度も『明日のハナコ』を上演しました。また、全国のいろんな人たちが『ハナコ』を上演してくれました。

二月になって、オッサンたちは集まった署名一一八四九筆を持って要望

書を提出しました。
ハナコたちも頑張りました。顧問の先生に、『明日のハナコ』を放送して欲しいと伝えました。手紙を書いて、他の先生方宛に送りました。

*小夜子とハナコ、立ちあがる。

小夜子 「当事者の私達の意見を聞いて欲しいし、知って欲しいです。」

ハナコ 「たった三文字だけで、この作品が差別だと言われてしまうのはどうかと思いました。事前にテロップで断りを入れたり、ピー音で対処できたはず。普通に放送して欲しいです。」

小夜子 「先生方には腹は立ちませんでした、先生方の言動は、上からの圧力や周りへの付度てんたがあつた結果だったのだろうと思つています。」

ハナコ 『差別だ』と、とつくにたたかかれてるはずなのに、現状たたかれていません。高校にも苦情の電話はかかってきていないと聞いています。ネットのコメントも、みんな味方になってくれています。大阪や富山や東京でも『ハナコ』を演じてくれています。だから問題ないと思います。」
小夜子 今でも『ハナコ』のことを考えています。忘れたくない黒歴史くろれきしではなく、高校生活で一番濃い思い出です。」

ナレーター この手紙に対する、先生方の反応はこうでした。

*顧問3、立ちあがる。

顧問3 こんなことを本当に高校生が書くかしら？
ナレーター そして先生方から回答書が届きました。

*顧問1、立ちあがる。

顧問1 「私たちは『明日のハナコ』が差別の劇であるとは考えていない。けれども、この差別用語を劇の中で「障がい者」が聞いたときに、問題がないだろうか。引用の中だから、批判的な文脈の中だからと受け流してもらえないだろうか。誤解される余地はないだろうか。」

*顧問2、立ちあがる。

顧問2 「また、その言葉は使用してよい言葉なのだと、他の一般の人々に誤認される可能性はないだろうか。」

不特定多数の人が観るテレビでの放送ということを考えてと、私たちは懸念けんねんを取り除くことができなかつた。」

顧問3 「今回の騒ぎがこれからの演劇部の活動の妨げになるのではと、不安に思っている先生方もいる。よって、このような騒ぎを引き起こしたことについて、お二人からは謝罪の一言が欲しいと考える。」

*偉い人、立ちあがる。

偉い人 みなさん。どうか、これ以上、生徒たちを苦しめないでください。もうこれ以上、騒ぎを大きくしないでください。大人たちの醜いみにくいいさかいに、子供たちを巻き込まないでください。私たちは子供たちを守りたいのです！
子供たちの未来を守りたいのです！

*先生たち、座る。
ハナコと小夜子、座る。

ナレーター 四月になりました。ハナコは三年生になりました。進学希望でしたから、部活動は引退して勉強に専念することになりました。
小夜子は、引退しませんでした。
今日も元気に大道具を作っています。
そこにハナコが通りかかりました。

*小夜子とハナコ、立ちあがる。

小夜子 久しぶりだよね。

ハナコ うん。

小夜子 元氣してた？

ハナコ うん。

小夜子 もう帰るの。

ハナコ うん。

小夜子 あんた、補習じゃなかったっけ。

ハナコ 机けつとばして出てきた。

小夜子 おいおい。

ハナコ あんな話きいてられっか。

小夜子 どしたの。

ハナコ あんた、「政治的中立性」ってわかる。

小夜子 へ？

ハナコ ごめん、無理なこと言った。謝る。

小夜子 謝られる方が傷つく、それ。

ハナコ 雑談になってさ、たまたま『明日のハナコ』の話になったんだよ。

*顧問2、立ちあがる。

顧問2 いまだから言うけど、先生は、最初からあの劇は危ないなあって思ってたのよ。

ハナコ はあ？

顧問2 あの劇って、『原発反対』ばかりだったでしょう。原発はいけない、原発は怖い。そんなふうに一方向的に描きすぎたと思う。でも原発にもいいところがあるじゃない。二酸化炭素を出さないから環境に優しいとか。いいところも悪いところも両方描く、そんな劇だったら、先生はこの劇をもっと応援したと思う。こういうのを政治的中立性って言って、劇を作るときにはとても大切で、

ハナコ 先生はバカですか。

顧問2 はい？

ハナコ 先生がDVの劇を作るときは、「お父さんはいつも家族を殴るといいう悪い面を持っていていけれど、給料を毎月持って帰ってくるという良いところもある」みたいな劇を作るんですか。戦争の劇を作るときは、「プーチンはウクライナでたくさん人を殺したけど、ロシアに利益をもたらしたから良いところもある」みたいな劇を作るんですか。

顧問2 それは話が違います。

ハナコ DVのお父さんは正しいんですか。プーチンは正しいんですか。それともどっちも正しいんですか。どっちも正しいなんて、何にもしないための言い訳だと思いますけど。

顧問2 だから、あのね、
ハナコ 原子炉の燃料プールの水の中に飛び込む仕事があるんですよ。どうしても部品が落ちこちちやうから拾わなくちゃならなくて、でもそのときすごい放射線浴びるもんだから、一回飛び込むと三〇〇万円もらえるんだそうです。でも日本人にやらせるとあとでいろいろ問題になるから、中央アジアから来た人とかにやらせるそうです。先生、原発って、そういうことしないと動かせないんですよ。

顧問2 そんなバカなことがあるはずが、
ハナコ 図書館の本に書いてあります。先生、原発は正しいですか、正しくないですか。

顧問2 ええと、それは、
ハナコ それは？

顧問2 わかりません。
ハナコ で、机けつとぼして出てきた。

顧問2、座る。

小夜子 もう戻らないの？

ハナコ 勉強なんかどこでだってできる。

*音楽。

小夜子 あんた、たまにすごいヤツだな。

ハナコ たまにってなんだよ。あたしはいつもすごいんだよ。

小夜子 ね、時間あるなら、ちよつと手伝ってくんない。

ハナコ え。

小夜子 あんた、ノコギリ、得意だったじゃない。

ハナコ え。

小夜子 なんかうまくいかないんだよなー。まっすぐ切れなくて。ねえ、頼むよ。

ハナコ 少しだけなら。

小夜子 ありがと。ここ切って。ここ。

*音楽高まる。おしまい。

*参考図書

「二〇〇年後の人々へ」(小出裕章・集英社新書)

「全国原発危険地帯マップ」(武田邦彦・日本文芸社)

「原発再稼働の深い闇」(小出裕章他・宝島新書)

「原発文化人五〇人斬り」(佐高信・朝日新聞社)

「原発は地球に優しいか」(西尾獏・緑風出版)

「もじれる社会」(本田由紀・ちくま新書)

「原発労働者」(寺尾紗穂・講談社現代新書)

引用資料 「演劇部員の手紙」

「演劇部会の回答書」